

## 秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 26 年 3 月）

仙台管区气象台  
火山監視・情報センター

女岳<sup>めだけ</sup>では噴気地熱域が引き続き確認されています。  
火山性地震は少ない状況で経過しました。地殻変動にも変化はみられず、ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意して下さい。  
平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

### 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2 - ）

東北地方整備局が仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置している監視カメラによる観測では、女岳の噴気の高さは噴出域から 70m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2 - 、 ）

火山性地震は少ない状況で経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図 3 ）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 秋田駒ヶ岳 女岳からの噴気の状況（3月4日12時05分頃）

- ・仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による映像です。
- ・実線赤丸で囲んだのが、女岳からの白色噴気で高さは 70m です。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 4 月分）は平成 26 年 5 月 12 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

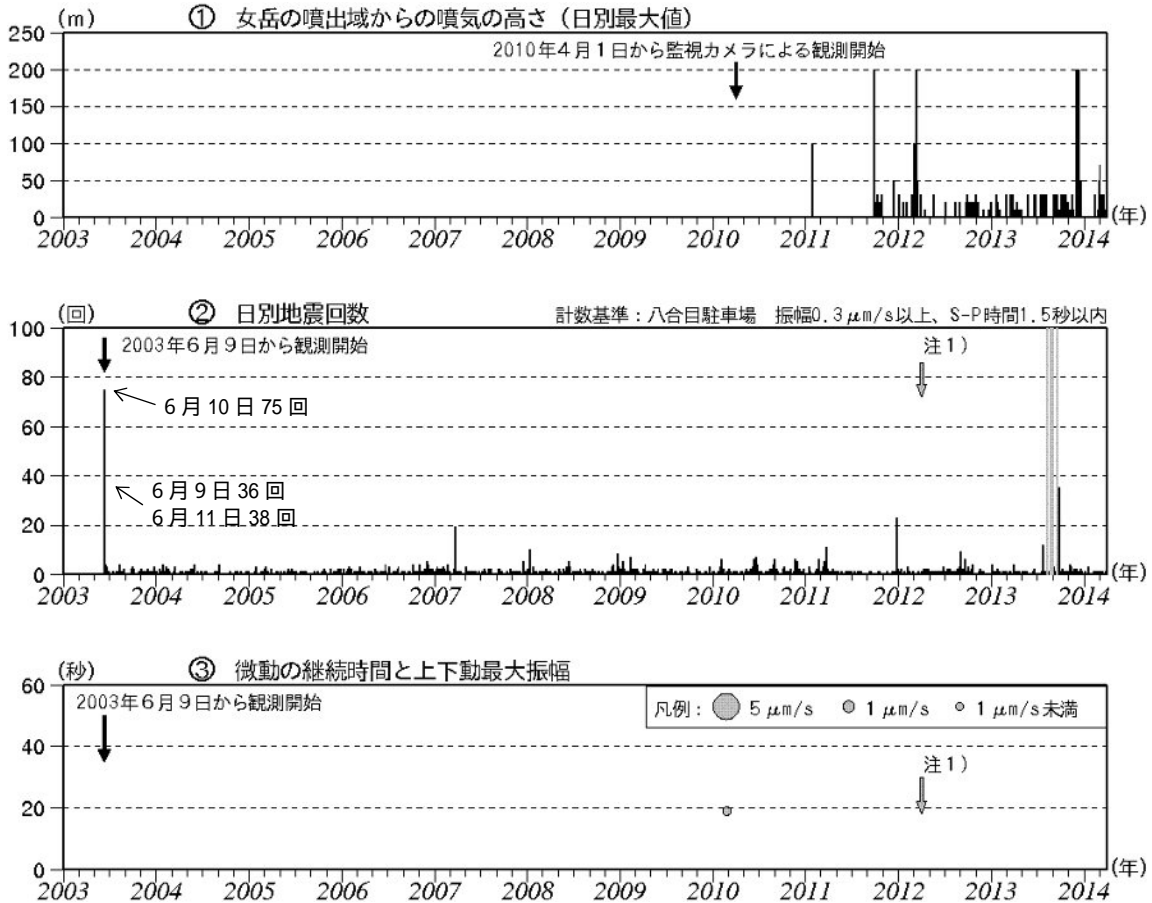


図2 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2014年3月）

- ・ 熊ノ台（女岳山頂の南西約5 km）及び仙岩峠（女岳山頂の南約5 km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・ 基準観測点の変更は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）。  
観測開始 2003年6月9日～東北大学秋田駒ヶ岳観測点 [ 振幅 0.5  $\mu\text{m/s}$  以上、S-P 時間 1.5 秒以内 ]  
注1) 2012年4月1日～八合目駐車場 [ 振幅 0.3  $\mu\text{m/s}$  以上、S-P 時間 1.5 秒以内 ]
- ・ の灰色部分は欠測を表しています。

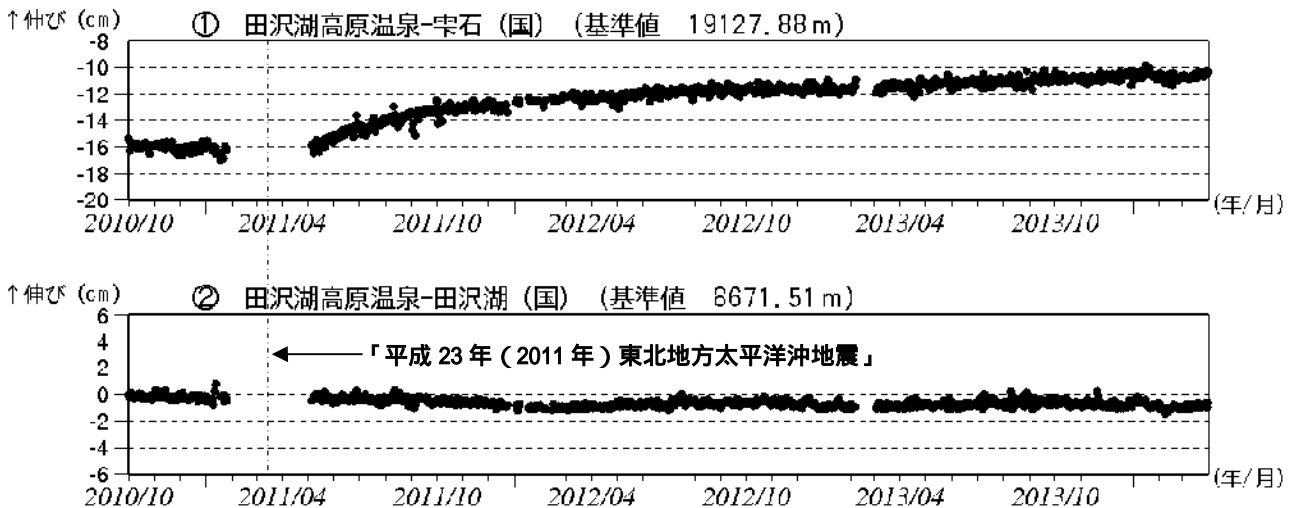


図3 秋田駒ヶ岳 GNSS<sup>1)</sup> 基線長変化図（2010年10月～2014年3月）

- 1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- ・ の基線では、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
  - また、その後の変動は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
  - ・ ~ は図5のGNSS基線 ~ に対応しています。
  - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
  - ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合がありますが、最新の値のみ表示しています。
- (国)：国土地理院

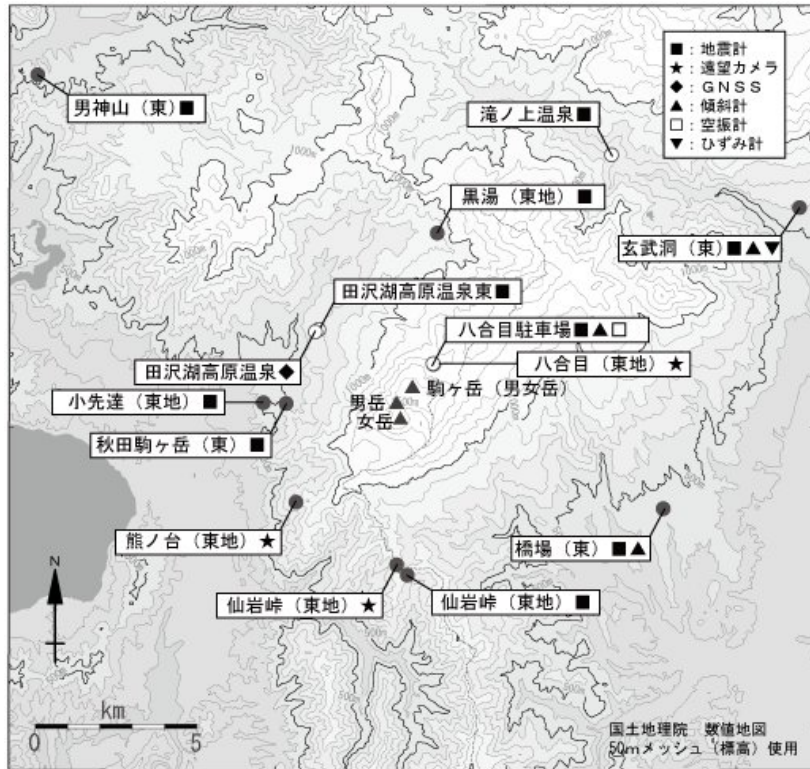


図4 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （東地）：東北地方整備局

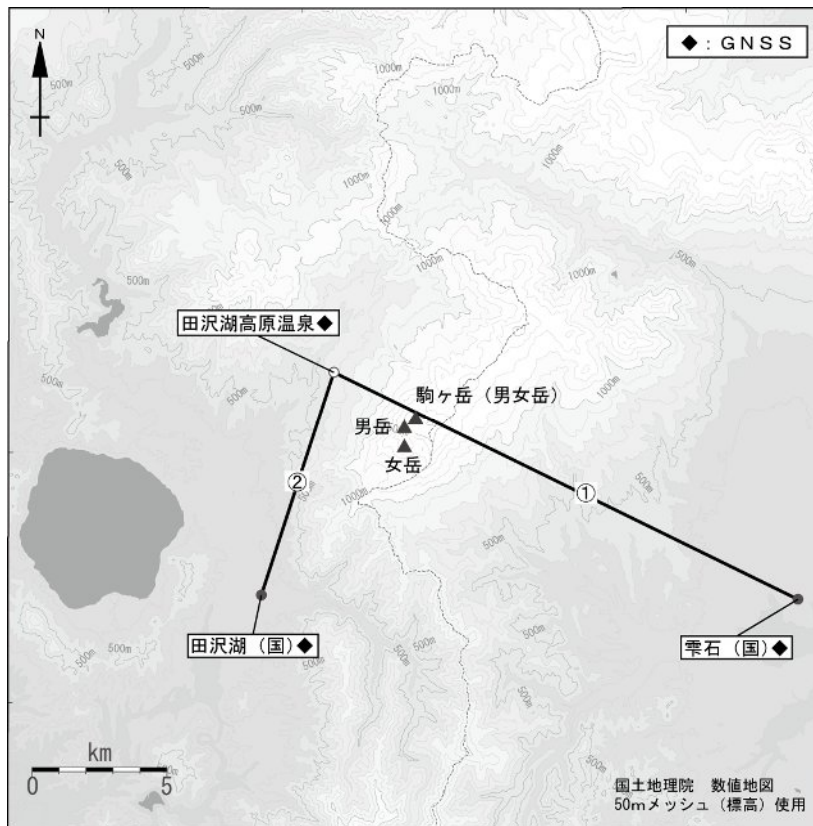


図5 秋田駒ヶ岳 GNSS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院